

危険度「高」地域で地震相次ぐ

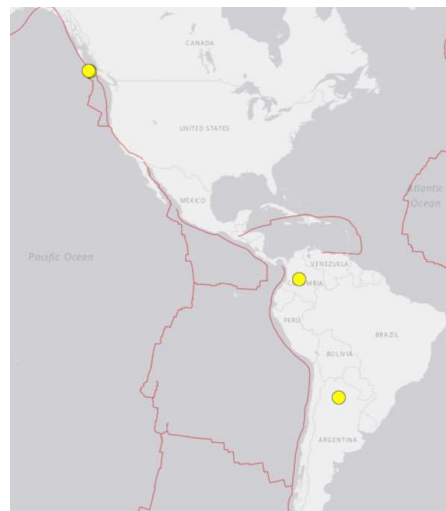
カナダ、アルゼンチン、コロンビアで

日本時間12月24日から25日にかけて、カナダやアルゼンチン、コロンビアの北米・南米地域でM6を超える地震が計5回相次いで発生した。これらの地震が起きる直前に当社が算出していた各国の危険度※はカナダが205%、アルゼンチンが200%、コロンビアが400%といずれも通常より地震が見込まれる状態にあつた。一連の地震によりアルゼンチンでは今後の危険度が更に高まり257%に達している一方で、カナダとコロンビアにおける危険度に変更はない。※危険度は国毎の地震発生頻度を指数化し現在の地震発生確率から当該国における現状を比較可能とした当社独自の指標。

【ご注意】 本号は「海外地震レポート」創刊準備号です。制作に当たっては実際のデータを使用していますので、本号の転載・転送や再配信、データの利用はご遠慮下さい。
合同会社イイチロ

露・千島で高い危険度

カムチャツカ半島や千島列島を含むロシアにおいて地震発生危険度が高い状態にある。千島列島では危険度が前回の432%から377%と低下傾向を見せてはいるものの通常の3倍以上の危険度であり、またカムチャツカ半島などそれ以外のロシア地域においては前回に引き続き461%と高い危険度が維持されている。



米国アラスカも要注意

12月24日から25日にかけてカナダで計3回のM6地震が発生、高い危険度となつているが、北米大陸では米国とアラスカでも同様に危険度が高止まりしている。米国は危険度216%で前回より危険度が5%増している他、アラスカも危険度400%と通常より注意が必要な状態。アリューシャン列島では11月24日にM6.3、12月02日にM6.0の地震が観測されている。

日本の危険度は低下 発生確率は上位

日本において2ヶ月以内にM6.5以上の地震が発生する危険度は前回の45.4%から42.1%へと若干低下した。だが、日本における地震発生確率は26.7%と地震大国だけに世界的には高い水準のままであることから引き続き注意は必要だ。日本国内を震源とするM6以上の地震は08月29日の青森県東

方沖M6.1・震度3以来約4ヶ月、またM6.5を超える規模の地震は06月18日の山形県沖M6.7・震度6強以来起きていない。

アジア各国の傾向性 中国では高い危険度

フィリピン海プレート境界付近など地震多発地帯であるアジア各国における状況も日本と同様だ。危険度はインドネシアで45.6%、フィリピンで79.0%と各国の平常値との比較では低い数値を示しているが、本来的に地震の多い地域であることから安心は禁物である。2ヶ月以内にM6.5以上の地震が発生する確率はインドネシアで30.4%、フィリピンで25.0%と決して低くない。

欧州はギリシャ

M5.2の地震が発生している。11月26日にアルバニアで発生したM6.4の翌日にM6.0の地震が起きていたギリシャでは前回まで危険度が288%と高かったが、その後の推移から今回は危険度が192%と200%を割る水準まで回復した。

大洋州は二極に

パプアニューギニアからフィジー、ニュージーランド、オーストラリアを含む大洋州では危険度が割れている。パプアニューギニアやソロモン諸島、フィジーなどで危険度が通常より低下している一方でトンガでは284%、ニュージーランドでは110%と通常より高くなっている。最近では11月上旬にトンガでM6.5とM6.6の地震が相次いで起きていた他、フィジーでも11月08日にM6.5の地震が観測されていた。

高止まりのアフガニスタン

12月20日にM6.1の地震が起きたばかりのアフガニスタンでは危険度が514%と高止まりしたままだ。また隣国イランでも地震発生確率こそ10%と高いとは言えないものの、通常時との比較では危険度300%となつており、同地域としては高い状態。

中南米ではペルーで上昇

中南米では12月下旬の地震の影響で危険度が上昇した国が見られている。アルゼンチンで前回200%だった危険度が257%となつた他、ペルーでも前回の105%から117%へと上昇しているのだ。



国内の地震に関する情報は当社が運営する地震解説メディア「地震NEWS」もご利用下さい。
BiglobeNews、ExciteNewsでも配信しています。

<https://jishin-news.com/>

前回以降のM6.0以上地震

- 12月23日 M6.0
カナダ
- 12月23日 M6.0
カナダ
- 12月24日 M6.0
アルゼンチン
- 12月24日 M6.0
コロンビア

今年のM6.0以上地震状況

- M6.0以上 143回 (前年134回)
- M6.5以上 33回 (前年 44回)
- M7.0以上 10回 (前年 17回)
- これまでの最大規模地震(前年)
- 05月26日 M8.0 ペルー
(08月19日 M8.2 フィジー)

2019年12月24日 (UTC) まで

各種データ

地震発生率一覧

当該国における2ヶ月以内のM6.5以上地震発生確率を最近の世界地震発生状況から算出しています。

- 01. 40.0% メキシコ
- 02. 31.6% パプアニューギニア
- 03. 30.4% インドネシア
- 04. 30.0% ニカラグア
- 05. 26.7% 日本
- 06. 26.7% アラスカ
- 07. 26.6% ソロモン諸島
- 08. 25.0% フィリピン
- 09. 24.2% アリューシャン列島
- 10. 23.7% トンガ
- 11. 23.1% ロシア
- 12. 22.7% フィジー
- 13. 22.5% 中国
- 14. 21.6% チリ
- 15. 20.3% ニュージーランド
- 16. 20.0% コロンビア
- 17. 18.9% 千島列島
- 18. 18.0% 米国
- 19. 17.6% ペルー
- 20. 17.1% アフガニスタン

2019年12月25日現在

危険度指数一覧

2ヶ月以内のM6.5以上地震発生危険度を現在の状況及び当該国の発生頻度から算出し指標化しています。各国毎の相対的な危険性を示しています。

- 01. 900% ニカラグア
- 02. 514% アフガニスタン
- 03. 462% ロシア
- 04. 400% アラスカ
- 05. 400% コロンビア
- 06. 377% 千島列島
- 07. 300% イラン
- 08. 284% トンガ
- 09. 270% 中国
- 10. 257% アルゼンチン
- 11. 216% 米国
- 12. 212% ミャンマー
- 13. 206% カナダ
- 14. 192% ギリシャ
- 15. 160% メキシコ
- 16. 145% アリュ列島
- 17. 120% エクアドル
- 18. 120% オホーツク海
- 19. 117% ペルー
- 20. 110% ニュージーランド

2019年12月25日現在

危険度指数変化

前回から危険度指数が変化した国について、上昇率・下落率それぞれの上位を示しています。

上昇率上位

- 01. 129% アルゼンチン
- 02. 111% ペルー
- 03. 105% 米国
- 04.
- 05.

下落率上位

- 01. 65% トンガ
- 02. 67% ギリシャ
- 03. 87% 千島列島
- 04. 91% フィジー
- 05. 93% 日本
- 06. 95% パプアニューギニア
- 07. 96% ニュージーランド
- 08. 97% インドネシア
- 09. 99% チリ

2019年12月25日現在

※本紙記事及び掲載データの転載は固く禁じます。※本紙掲載データの営利利用に際しては当社との間に別途コンサルティング契約が必要となります。※本紙は地震の発生・不発生を保証の責任を負いかねます。※画像は気象庁及び米国地質調査所より。

海外地震レポート

第00001号

2019年12月25日発行

発行社：合同会社イイチロ

発行人：門田威一郎

東京都新宿区西新宿1-26-2

新宿野村ビル32F

電話：03-5322-2895

URL：<https://iichiro.com/>